

## Appendix2 東京大学における外国人留学生の健康状況

牛島廣治 磯野富美子

東京大学大学院医学系研究科発達医科学教室

### A. 東京大学における外国人留学生の人数

東京大学における外国人留学生(以下、留学生)の受け入れ人数は、他大学と比べて圧倒的に多いことが文部科学省の資料からうかがわれる(図1)。留学生の人数は学部学生、修士課程、博士課程いずれにおいても増加し、平成14年5月現在には学部学生211名、修士課程480名、博士課程921名で研究生を含めると総数2050人になっている(図2)。国別では、中国、韓国、台湾などアジア系の留学生が大多数を占めている<sup>1)</sup>。

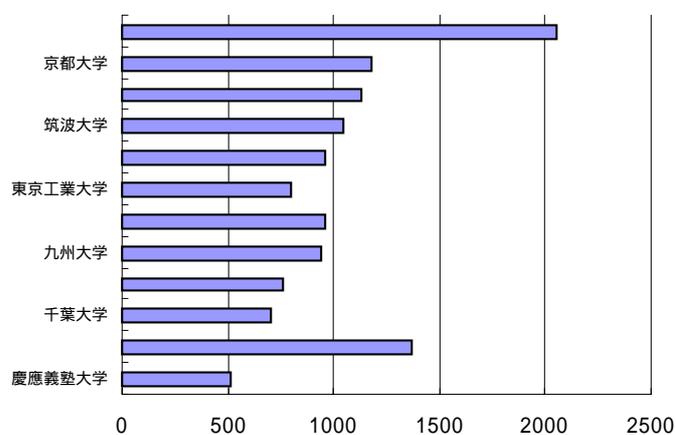


図1 留学生受け入れ主要大学(文部科学省高等教育局留学生課平成14年5月)

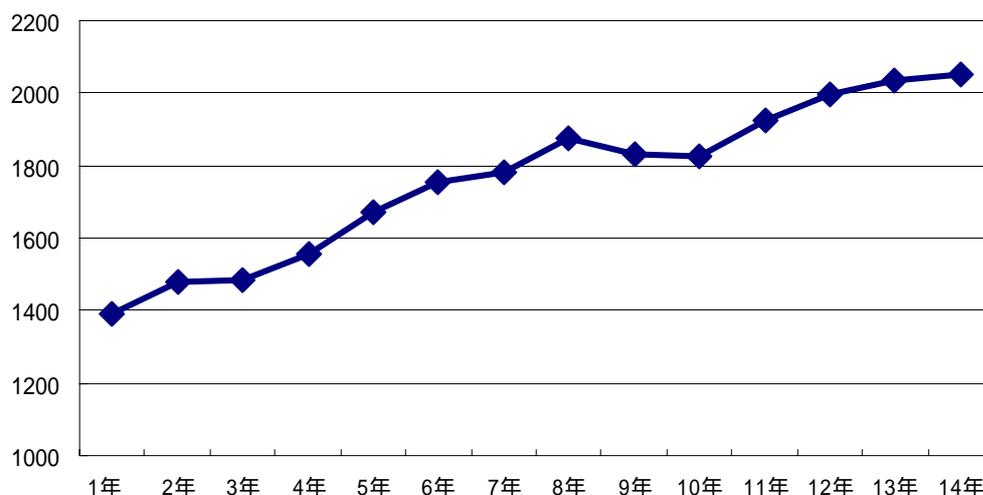


図2 東京大学における留学生受け入れ数の推移(東京大学研究協力部留学生課調)

## B. 留学生の病気への対処法

一般的に留学生は不慣れな生活環境や言葉の障壁などのため、精神的・身体的に大きなストレスにさらされる傾向にある。そのため、病気やけがに遭遇する者も少なくないと考えられる。日本国際教育協会の私費外国人留学生 2,394 人を対象にした調査<sup>2)</sup>によれば、病気やけがの際には、病院への通院(受診)や薬局(市販薬)の利用が多いが、次いで、保健センターもよく利用されている(図3)。

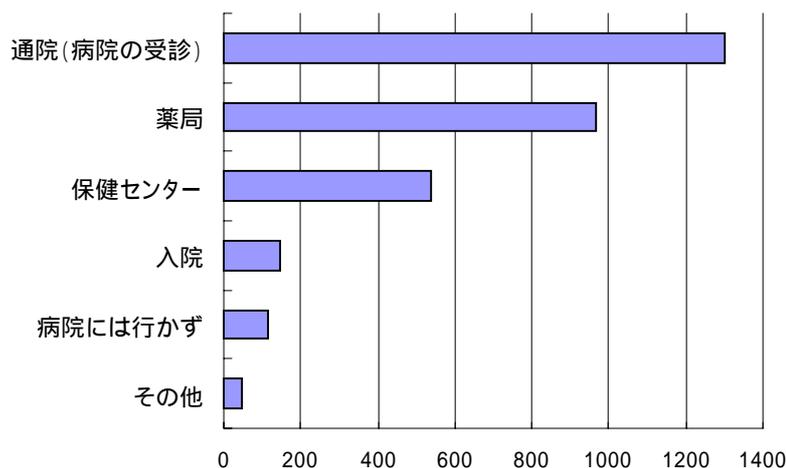


図3 病気やけがの対処法(平成13年度私費外国人留學生生活実態調査データより作成)

## C. 東京大学における保健センターの利用状況

保健センターは1965年に東京、京都、長崎、島根の4大学に設置され、以降、他の大学にも広く設置されるようになり、学生の健康管理、疾病や障害の予防と初期治療、精神保健等に対応している。

東京大学保健センターの調査<sup>3)</sup>によれば、なんらかの健康問題が生じた時には、東京大学の留学生は保健センターに相談するという者が最も多い(図4)<sup>3)</sup>。受診についても、まず保健センターという者が多い(図5)<sup>3)</sup>。外国の医療機関を受診する時に感じた不安には、「日本語等の言葉によるコミュニケーション」と「問題なし」が多い一方で、「医療費に」に関する不安も見られた(図6)<sup>3)</sup>。

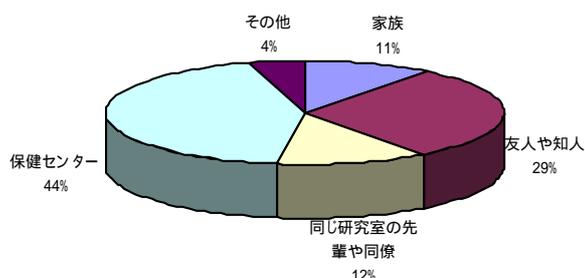


図4 留学生の健康問題についての相談相手(東大保健センター調査より転載)

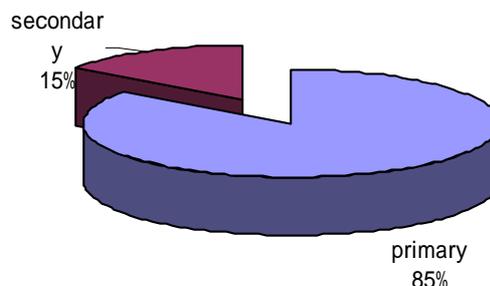


図5 保健センター利用の優先度(東大保健センター調査より改変)

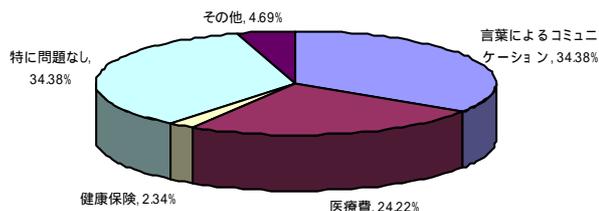


図6 外国人留学生在が病院の受診時に感じた不安(東大保健センター調査より転載)

#### D.東京大学保健センターにおける内科の受診状況

外国人留学生の内科受診者数は12年度にはやや増加していたが、日本人学生と比較すると、留学生の受診率のほうが日本人学生より高い傾向がみられる(表1・図7<sup>3)</sup>)。

表1 内科受診状況の3年間の推移

	平成10年	11年	12年
初診	228	223	239
再診	427	419	519
合計	655	642	758

東大保健センター 平成10年度・11年度・12年度

健康管理概要データを基に作成

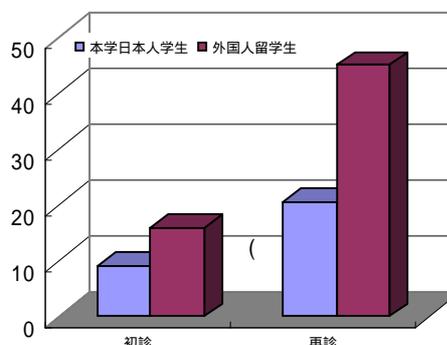


図7 留学生と日本人学生の内科受診状況(東大保健センター調査より改変)

また、毎月の受診状況をもても留学生には夏休みの時期の落ち込みも少なく、日本人学生のように月別の大きな変動は見られなかった(図8)。

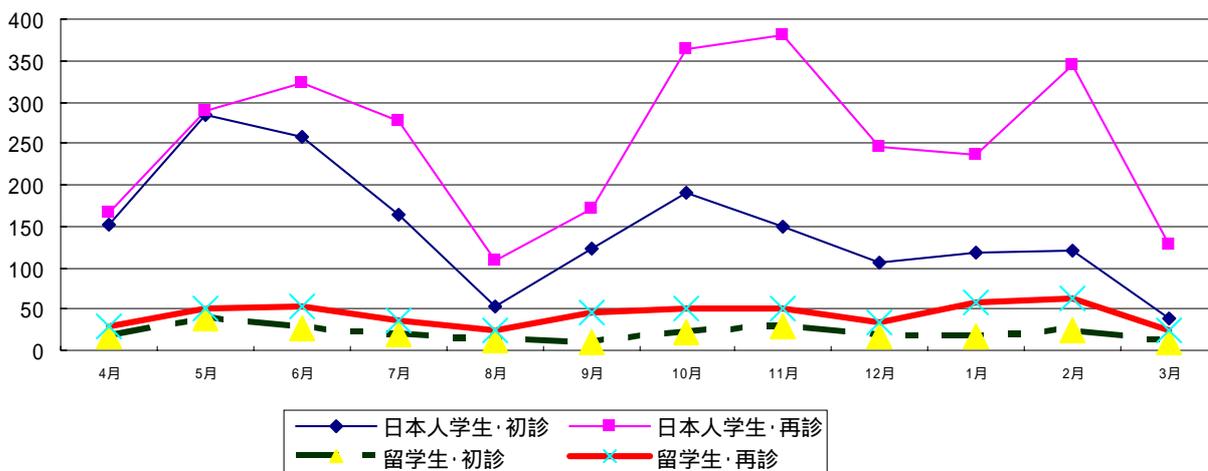


図8 平成12年度の内科受診者数の年間推移  
(東大保健センター平成12年度健康管理概要データを基に作成)

なお、留学生に多く見られる疾患は、呼吸器系や皮膚科、消化器系に関するものであった(表2)。健康相談の受診者は、平成12年度には61名であった。

表2 留学生の疾患別の受診者数

	10年	11年	12年
呼吸器	298	250	294
皮膚科	88	93	106
消化器	57	61	93
整形外科		52	57
外科	48	16	14
アレルギー・膠原病	3	21	32
眼科		22	13
耳鼻咽喉科		8	15
健康相談	127	23	61
その他	57	101	99
合計	678	647	784

病名分類が11年より変更されているため、10年度は新分類に変更して記載した。(東大保健センター 平成10年度・11年度・12年度健康管理概要データを基に作成)

#### E. 東京大学保健センター精神神経科の受診状況

精神神経科で医師またはケースワーカーによる面接を受けた者の人数は、12年度には学部生・大学院生ともに増加傾向が見られた(表3)。

表3 精神神経科受診状況

		10年		11年		12年	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
医師面接	学部生	0	4	0	3	3	0
	院生	27	27	22	18	71	42
	その他					3	6
	合計	27	31	22	21	77	48
CW面接	学部生	1	1	0	0	0	0
	院生	3	2	2	2	9	2
	合計	4	3	2	2	9	2

東大保健センター 平成10年度・11年度・12年度健康管理概要データを基に作成

## F.東京大学における留学生の入学時健康診断の受診状況と主要な結果

### 1)受診状況

東京大学の保健センターでは、留学生を対象にした入学時の健康診断として、春と秋の年2回、胸部X線検査、B型・C型肝炎のスクリーニングを含む血液検査、尿検査および精神科健診などが実施されている。以下、平成10年度から12年度の3年間の主要な結果をまとめた。受診者数は、平成10年度454名、11年度407名、12年度447名で、毎年400人を超えている(表4)。しかし、日本人学生に比べると、その受診率は低い。

表4 受診状況

		10年	11年	12年
男子	本郷	223	191	200
	駒場	51	65	71
	合計	274	256	271
女子	本郷	117	97	115
	駒場	63	54	61
	合計	180	151	176
全体	総計	454	407	447

東大保健センター 平成10年度・11年度・12年度健康管理概要データを基に作成

### 2)胸部X線検査の結果

胸部X線検査の要経過観察者数(表5)は、男性・女性ともに毎年5名以下で推移している。しかし、全体における要経過観察者の比率は、日本の学部生の0.1%に比べると極めて高く、特に女性で高い。

表5 胸部 X線検査の結果

		10年	11年	12年
男子	受診者数	274	288	271
	要経過観察(%)	2(0.7)	2(0.7)	2(0.7)
	異常なし(%)	272(99.3)	286(99.3)	269(99.3)
女子	受診者数	180	119	176
	要経過観察(%)	4(2.2)	3(2.5)	3(1.7)
	異常なし(%)	176(97.8)	116(97.5)	173(98.3)
全体	総計	454	407	447

東大保健センター 平成10年度・11年度・12年度健康管理概要データを基に作成

### 3)血液検査の結果

血液検査の結果（表6）でも、日本人学部生のHBs抗原陽性率0.5%に比べると留学生のHBs抗原陽性率は極めて高い。抗HCV抗体は本郷支所でしか実施されていないため、留学生全体では陽性率はさらに高くなるのではないかと考えられる。総コレステロール値は、男女とも有所見者率の増加傾向がみられる。

表6 血液検査の結果

		10年		11年		12年	
		受診者数	有所見者数*(%)	受診者数	有所見者数*(%)	受診者数	有所見者数*(%)
男子	GOT	274	11(4.0)	256	7(2.7)	271	7(2.6)
	TCHO	274	11(4.0)	256	14(5.5)	271	20(7.4)
	HBs抗原	274	15(5.5)	256	12(4.7)	271	8(3.0)
	抗HCV抗体**	223	4(1.8)	191	0	200	2(1.0)
女子	GOT	180	2(1.1)	151	0	176	0
	TCHO	180	10(5.6)	151	1(0.7)	176	11(6.3)
	HBs抗原	180	5(2.8)	151	3(2.0)	176	3(1.7)
	抗HCV抗体**	117	2(1.7)	97	1(1.0)	115	0

\*:GOT 40IU/l、TCHO 220 mg/dl、HBs抗原 陽性、抗HCV抗体 陽性

\*\*：抗HCV抗体については、本郷支所のみで実施されている。

東大保健センター 平成10年度・11年度、12年度健康管理概要データを基に作成

### 4)精神科の健診結果

平成10年と11年度には、精神科の健診はUPI (University Personality Inventory) を用いた精神的・身体的状態に関する質問と精神科医による面接によって実施されていた。UPIは東京大学を含む大学の保健センターで開発された日本の大学独自の質問紙で、多岐にわたる質問項目にyesとnoの2段階で回答し、受診者のかかえる問題を把握するものである。平成10年と11年度のUPI得点は男性では横ばいだが、女性ではやや低下していた(表7)。

表7 UPI得点の分布(平成 10・11 年)

		10 年				11 年			
		9 以下	10～19	20～29	30 以上	9 以下	10～19	20～29	30 以上
男子	本郷	173	35	11	0	143	44	3	2
	駒場	37	8	4	0	27	12	4	1
	合計	210	43	15	3	170	56	7	3
	平均得点	6.99				6.9			
女子	本郷	68	42	4	3	66	21	9	2
	駒場	23	16	5		23	14	5	2
	合計	91	58	9	3	89	35	14	4
	平均得点	10.34				9.4			
全体	総合計	301	101	24	6	259	91	21	7

東大保健センター 平成 10 年度・平成 11 年度年度健康管理概要データを基に作成

UPI は質問内容が多岐にわたっており、広範囲に受診者の状況を把握する手がかりが得られるが、回答が 2 段階などいくつかの問題点があったため、健診方法が変更された平成 12 年度からは国際的に広く使用されている NEO—FFI を用いて健診が行われた。その質問紙への回答の一部をまとめたものが、表 8 である。

表 8 留学生健診における質問紙への回答の一部(yes と回答した人数)

		学部学生	院生・研究生	合計
		N(%)	N(%)	N(%)
1. 一日中憂うつだったり、沈んだ 気持ちでいることが 2 週間以上 続いたことがありますか？	男性	1(10)	2(1)	3(1)
	女性	1(7)	9(7)	10(7)
2. 死んだほうがよいと思ったこと がありますか？	男性	1(10)	7(3)	8(4)
	女性	2(13)	13(10)	15(10)
3. 他の人にはなんでもないような 状況で、突然、不安や息苦しさを 感じるような発作を経験したことが ありますか？	男性	2(20)	32(15)	34(16)
	女性	5(33)	25(19)	30(21)

対象は学部学生 25 人(男 10、女 15)、院生・研究生 338 人(男 209、女 129)

東大保健センター平成 12 年度健康管理概要より転載

## G.まとめ

東京大学では留学生数が増加しているが、彼らの心身の健康問題に対しては保健センターにおいて診療や健康診断を実施して対応されている。留学生は健康問題が生じた時にはまず保健センターを利用する傾向にあり、内科への受診者数は日本人学生のように夏休みの時期の落ち込みも少なく、年間をとおしてコンスタントに推移する傾向にあった。留学生に多い疾患は、呼吸器系や皮膚科、消化器系などであった。

春と秋の2回の入学時健康診断では、胸部X線検査の要観察者の比率やHBs抗原陽性率が日本人学生と比べて高かった。また、総コレステロール値は男女ともに有所見者率の増加傾向がみられた。

本稿をまとめるにあたり、貴重な資料をご提供くださいました東京大学保健センター 上原響志夫先生、田口理恵氏、東京大学研究協力部留学生課および日本国際教育協会の皆様に心からお礼申し上げます。

### 引用・参考文献

- 1)東京大学留学生交流委員会 留学生生活実態調査専門委員会．東京大学 1999年留学生生活実態調査報告書．
- 2)日本国際教育協会 平成13年度私費外国人留学生生活実態調査
- 3)木谷誠一他．東京大学保健センター内科受診した外国人留学生の疾患プロフィール．CAMPUS HEALTH 2001 3：527-529．
- 4)東京大学保健センター．平成10年度健康管理概要
- 5)東京大学保健センター．平成11年度健康管理概要
- 6)東京大学保健センター．平成12年度健康管理概要